

CRASEED NEWS



発行:NPO 法人 リハビリテーション医療推進機構 CRASEED / 年3回発行 / 第27号 (2014年9月6日発行)
〒560-0054 大阪府豊中市桜の町3-11-1 関西リハビリテーション病院内 TEL 06-6857-9640 <http://craseed.sakura.ne.jp/>

no. 27

第51回日本リハビリテーション医学会学術集会

実用先進への実感。未来へ向けて

去る2014年6月5日から6月7日、名古屋国際会議場にて藤田保健衛生大学リハビリテーション医学I講座教授、才藤栄一大会長のもと第51回日本リハビリテーション医学会学術集会が開催された。テーマは「実用リハビリテーション医学 - Practical Rehabilitation Medicine -」。リハ医学は徹底的に実用的な医学であるとの大会長の思いから決められたようだ。

キーワードは3つで「ユニークで普遍」、「実用先進」、そして「構造的知恵」である。

ロゴマークはその一つである unique & ubiquitous (ユニークで普遍) をポップでカラフルにデザインされたものであった。学会全体のデザインはこのロゴマークに代表されるよう白地にポップな配色で日本語書体はメイリオを使用され、透明感と統一感とのあるテーマで表現された。これは大会長のご意向だったとのこと。企業展示においてもこのカラーは会場装飾に効果的に使われ、その壮大さにまるでショーを見に行ったかのような衝撃を受けた。

本学術集会の参加者は前回の約3,500名を大幅に上回り4,000名を超え、一般演題は過去5年で最高の756題であった。これほどまでも大盛会だった理由はユニークな企画構成にあっただろう。

今回は特別企画としてコメディカルのためのポスターセッションが同時開

催された。これは私が調べる限り、初めての企画であった。演題数は287題。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、義肢装具士、ソーシャルワーカー、医師が学会員でなくとも応募可能であった。会場は予想通り多職種の方々の熱気にあふれていた。チーム医療を柱とするリハビリテーション医療であるから、今後もぜひ毎回開催されてほしいと切に願う。



もう一つのキーワードは「構造的知恵」とのことで、教育講演プログラムも工夫されたものだった。今回は2種類の構造教育講演が用意された。一つ目は高次脳機能障害対応とのことで、原因疾患で分けて高次脳機能障害を解説された。二つ目は入門リハビリテーション医学であり、2時間でリハ医学の概要が理解できるお得な教育講演であった。

シンポジウムのテーマは一貫して「活動」であり、なぜリハ医学において活動にフォーカスするべきかをあら

ためて考えさせられた。一つ目は「活動を測る」として最新の活動計測を論じられた。二つ目は「活動を変える」としてロボットリハの話題であった。こちらでは兵庫医科大学病院の竹林崇OTがシンポジストとして参加された。三つ目は「活動が変える」として活動機能構造連関について論じられ、四つ目は「活動が支える」として超高齢化社会を迎え、他学会も大きく注目するフレイルや、認知症、ロコモへの挑戦が話題となった。5つ目は「活動が変わる」として道免教授もシンポジストとして参加され機能再建から活動へを論じられた。最後に「活動を支える」として社会環境因子の質向上について議論された。

国際化をめざしてのEnglish sessionも私の知る限り初めての企画であった。特別講演では北米、欧州、アジア、各国の最先端リハ医療について講演された。

最終日にはRJN懇親会が開催され、CRASEEDの医師たちも多く在籍し、私が部長をさせていただいているリハ医学会音楽部のミニコンサートを聞く機会をいただいた。「花は咲く」は復興の願いを心を込めて合唱した。盛り上がったパーティー気分で情報交換の花を咲かせた。

非常に勉強になった3日間であった。(社会医療法人祐生会みどりヶ丘病院リハビリテーション科部長

森脇美早先生)

CRASEED 新人紹介



宇治武田病院
寺田 央 先生

はじめまして、昨年よりお仲間に加えていただきました宇治武田病院リハビリテーション科の寺田央（ひろむ）です。胸部心臓血管外科医として医師のキャリアをスタートさせ、色々あってリハビリ

テーション医に転科して早16年が過ぎてしまいました。

私が患者さんに提供しようとしているリハビリテーションとは、「その人らしく生活できる状態への回復と安全で楽に生活できる生活環境を家屋評価などを通じて設定すること」を前提として、患者さんの生活の質の向上に向けて医療関係者、患者さん、患者さんのご家族を含めたチームアプローチを行っていきたく思っております。暫く医局から離れた生活をしていましたが縁あってクラシードの活動に触れる機会に恵まれ、その後新しい知識を吸収する場所の必要性を感じておりました。道免先生のご教示をいただく機会もあり、この度クラシードの専門会員に加えていただきました。これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

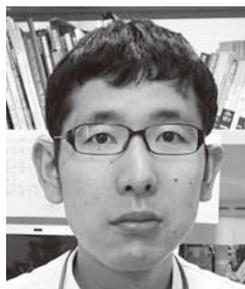


兵庫医科大学
ささやま医療センター
藤井 嵩 先生

2014年度より兵庫医科大学リハビリテーション科に入局させていただきました。医師3年目の藤井嵩と申します。2014年3月に初期研修を終え、4月よりささやま医療センター

にて勤務させていただいております。まだリハビリテーション科の医師として働き始めて数ヶ月ではありますが、実際に現場で働くことでリハ医としてのやりがいや面白さ、責任を感じております。また、想像していた以上にリハビリの世界は奥が深く、リハ医として幅広い知識が必要であるということを痛感しております。現在は周りの先生方のご指導をいただき、皆様にご迷惑をおかけしながら、日々勉強させていただいている状況であります。

まずは専門医取得に向けて広くしっかりと学んでいきたいと思っております。まだまだ至らない点ばかりでこれからもご迷惑をおかけすることも多いかと存じますが、皆様ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。



兵庫医科大学
ささやま医療センター
和田陽介 先生

CRASEEDのみなさま、はじめまして。2014年4月より兵庫医科大学ささやま医療センターでお世話になっております。私は、2003年に

山口大学を卒業後、全人的、総合的な診療のできる医師を志し、市中病院や診療所で一般内科の研修を受けてまいりました。その中で、廃用症候群や誤嚥、介護に関する様々な課題に直面し、リハビリテーションに関心を持つようになりました。2008年より聖隷三方原病院、浜松市リハビリテーション病院、兵庫県立総合リハビリテーションセンターでリハ医としての研修を受け、リハ専門医、指導医を取得いたしました。この度、総合性を活かしながらリハ医としても成長できる環境を求めると、幸運にもささやま医療センターで勤務する機会を与えていただきました。

当院は兵庫医大本院から各科の専門医が短期間ずつ派遣されることが多いためか、リハをはじめ栄養障害や認知症への対応、緩和ケアといった横断的な領域が育ちにくい印象があります。その分、リハ医が横断的、継続的に関わることで、変化を起こすことができるのではないかと感じています。今後とも諸先生方のご指導をいただきながら、努力したいと思います。よろしくお願いいたします。



兵庫医科大学病院
池田紗綾香 先生

今年度より育休から復帰した池田紗綾香と申します。中学生の時に終末期医療のありかたを問う「病院で死ぬということ」という本を読み、医師を目指すようになりました。医師となり研修をしていく中で退院す

ればそこでゴールとなる医療に疑問を感じ、患者さんに寄り添う医療ができるのはリハビリテーション科だと思い入局に至りました。現在兵庫医科大学病院に勤務しており、リハビリの基礎から学ばせていただいております。大学病院でのリハビリは急性期を中心とした脳神経疾患、内部障害、がん疾患をはじめ、慢性期脳卒中のCI療法など多岐に渡っています。勉強不足を日々痛感させられますが、医局の先生方のご指導をいただきながら楽しく働いています。また関連病院の先生方とのネットカンファレンスもあり、育児をしながらでも自宅から参加することができるのでとても恵まれた環境です。育児との両立はなかなか難しいこともありますが、ゆっくりでも一歩ずつリハビリ科医らしくなれるよう精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。